

Let's make our pronunciation better !

－英語の発音に自信をつける－

古川あおい, 松本涼杷, 太田岬希, マクデイド朗南

延岡高等学校 Nobeoka High School

Abstract

普段、授業で英語を話すときなどに多くの人が発音しづらい単語があることに気づき、それらの特徴や傾向を自分たちで調べ、解決案を作りたいと考えた。そこで、発音が難しい単語を厳選し、同級生への調査を行った。この研究から明らかになったことは、①s.r.w.lで始まる単語やw.l.e.thで終わる単語は特に発音が難しく、機械にも認識されづらい。②解決案としてフォニックスや子音を意識することが挙げられる。という2つのことだ。ただ、解決案として挙げられたフォニックスや子音の意識は発音をよくする方法のほんの一部に過ぎないため、さらに解決案を増やしそれらを組み合わせることなどによって法則性を導くことができるのではないかと期待できる。

Keyword フォニックス / 子音

1. 序論

(1) 研究背景

日本人の英語の発音には独特な癖があり、外国の人が聞き取りづらいという話は誰もが聞いたことがあるだろう。発音をネイティブに近づけることができれば、自信をもって英語を話すことができ、面接や授業など多くの場面で役に立つと考え、この研究を行った。

(2) 研究の目的(or動機or意義)

本研究は、発音が難しい英単語の特徴と傾向を調べ、それらを改善する案を見つけることを目的とする。

(3) 過去の研究成果

本多吉彦(2001)では、英語の綴りである26文字のアルファベットは英語の音の数より少ないため、文字と文字を合わせることで足りない音を補っている。そのため、英語教育の基礎である語彙力を伸ばすためにはフォニックスの学習は不可欠であると述べている。

渋谷玉輝(2011)では、公立小学校の外国語活動(英語)で、フォニックスを導入すると、児童が綴りを見て発音するときに手がかりとなる可能性があるとして述べている。

※フォニックスとは発音と文字の関係性を学ぶ音声学習方法で、元々英語圏の子どもたちに読み書きを教えるために開発された。

(4) 研究仮説

①r,lが始めにくる英単語とe,wが終わりにくる英単語は発音が難しいのではないかと。

②1、英単語の最後の子音に母音をつけないように意識して読むと発音が認識されやすくなるのではないかと。

2、フォニックスを意識して読むと発音が認識されやすくなるのではないかと。

※フォニックスとは発音と文字の関係性を学ぶアメリカ発祥の音声学習法である。

2. 調査方法

(1) 材料

- ・必携英単語LEAP
- ・iPad(翻訳アプリ)

(2) 調査方法(or実験方法)

① 班員それぞれがLEAPのパート1(400単語)を1つの英単語に対し3回ずつ翻訳アプリに発音し、3回とも認識されなかったものに印をつける。

②

①の結果から発音が難しい英単語の特徴を見つけ、さらに8個に絞る。

③クラスメイト(16人)を対象に発音調査を行う。

※①と同様に翻訳アプリを用いる。

(3)発音調査の内容

「英単語を普通に読む」、「英単語の最後の子音に母音をつけないように意識して読む」、「フォニックスを使った発音方法で読む」の3パターンを行い、認識率を調べる。

※フォニックスを使った発音方法

インターネット上にある複数のフォニックスの表を参考にし、班員で独自に以下のような読み方を考案する。

trip	トゥルイブ
rely	ウルライ
wealth	ウアエアルス
rule	ウルアッルエ
advantage	アドゥヴァンティジ
lately	ルアトゥルイ
novel	ノーヴェル
terrible	トゥエウルボー

3. 本論

(1)調査(実験)結果①

発音が難しい英単語の特徴として、s,r,w,lで始まるものとw,l,e,thで終わるものが多いことが挙げられた。

(2)調査(実験)結果②

「英単語を普通に読む」ときと比べたとき、「英単語の最後の子音に母音をつけないようにして読む」ときと「フォニックスを使った発音方法で読む」ときでは、認識率が上がったものもあったが、すべての認識率が上がるという結果にはならなかった。

8個の単語の中で実験の結果認識率が上がったものは、trip,advantage,terribleの3個のみである。

(3)考察

結果から、「単語の最後の子音に母音をつけないようにして読む」と「フォニックスを使った発音方法で読む」ことが発音が難しい英単語の認識率を上げることに繋がるのではないかと考えた。しかし、この2つの実験ではすべての英単語の認識率を上げることができなかったため、この2つの方法以外にも発音がよくなる方法があり、それらを結びつけることによって法則性を見つけていることができると考えた。

4. 結論orまとめ

英単語の正しい発音には、母音とフォニックスを意識することが関係する。しかし、これだけを意識するだけで発音が改善されるとは言い切れないため、他の案も考えて実験する必要がある。

5. 展望(or 課題と展望)

今回は限られた英単語のみの実験だったため、面接や授業などでも活用できるように英語の短い文章でも実験をする必要がある。

フォニックスが私たちの英語の発音にどのような影響を与えるのかを長期的に調査したい。

また、今回の実験では1つの翻訳アプリのみの使用だったため、複数の翻訳アプリを並行して使用し、データの信頼性を高める必要がある。

6. 謝辞

今回の研究をするにあたり、ご指導いただいたアドバイザーの上ノ原一道様、津嶋大樹先生、ありがとうございました。

7. 参考文献

- 1)本多吉彦(2001):『フォニックスの重要性と日本の英語教育におけるその役割』 文化女子大学紀要. 人文・社会科学的研究
- 2)渋谷玉輝(2011):『早期英語教育におけるフォニックス導入の可能性』 言語と文明